

メディア情報工学科だより



2011年12月13日 第6巻第2号(通巻第16号) 沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科発行

学科近況

メディア情報工学科では、本科と専攻科で行っている教育プログラムに対して日本技術者教育認定機構(JABEE)による審査を受けました。JABEEとは、高等教育機関で実施している技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしているか評価し認定する制度です。認定校を卒業すると質の高い技術者基礎教育を受けたことが客観的に証明され、技術者として自信を持って社会に出ていくことができます。審査結果は来年3月頃通知される予定です。伊波先生が情報処理学会 第73回全国大会優秀賞を受賞されました。前号の学科だよりでお知らせしましたが、タンスリヤボン先生は在外研究のためタイ国タマサート大学に滞在中です。ご存じのようにタイは大規模な洪水にみまわれています。大学も洪水の被害を受け試験は延期、後学期の開講は未定の状況ですが、先生は元気で頑張っているとのこと。鈴木先生にご長男 悠仁君が11月11日に誕生されました。悠仁君の健やかな成長を祈るとともに、将来沖縄高専の学生になってくれることを期待します。

(平成23年度メディア情報工学科長：角田 正豊)



各学年の話題(専攻科生)

学生の状況について

専攻科2年生は学修成果レポートを作成し、10月初旬に大学評価・学位授与機構に学位審査を申請しました。学修成果レポートのテーマ名は次の通りです。下地寿弥：「会議室室内ロボットの開発」、平安名啓太：「人追従を用いた経路教示手法とプレイバック型ナビゲーション」。提出した学修成果レポートについての小論文試験を、福岡で12月18日に受験します。また、下地君と平安名君は、9月に電気学会平成23年産業応用部門大会シンポジウムに参加し、専攻科で取り組んでいる研究成果を発表しました。

専攻科1年生では、兼城駿一郎君が9月に米国で海外インターンシップに参加しました。シリコンバレーの先進的なIT企業見学やそこで働く技術者との交流を通して得られた体験を糧として、将来日本のIT産業をリードする技術者に成長してくれることを期待しています。

(専攻科情報工学コース長：角田 正豊)

各学年の話題(5年生)

学級状況について

4年前の4月に入学してから早いもので、高専での授業も残り1ヶ月あまりになりました。

11月の高専祭では「MindDebugger」というタイトルの映像作品を上映しました。高専祭1日目は編集作業が間に合わず2日目からの上映でしたが、500人以上の観客を動員しました。5年間を共に過ごした学生達のチームワークを活かし、1期生から続くメディアの伝統に恥じない完成度の高い作品でした。

5年生は現在、卒業研究の総仕上げで忙しい毎日を送っています。卒業研究の最終発表は1月26日から30日まで3日間かけて行います。卒業論文の提出は2月の中旬となりますが、メディア情報工学科で学んできたことの総仕上げとして、よい卒業研究となるよう期待しています。

卒業式は別途案内があるかと思いますが3月17日(土)に予定されています。4月からは進学先、就職先で新たな生活が待っています。それまで、充実した高専生活を過ごして欲しいものです。

(メディア5年担任：正木 忠勝)





各学年の話題(4年生)

学級状況について

夏休みにはインターンシップが実施され、それぞれが希望する企業や大学で働く体験をしました。仕事の内容や職場の様子など、各自経験したことは異なると思いますが、現在自分たちが置かれている学生という立場とは異なる社会人としての一体験を通し、働くことの意義、やりがい、厳しさなど、感じ得られるものがあつたのではないかと思います。

後期に入ると、高専祭の準備が本格化し、今年は映像作品を作成・上映しました。タイトルは「楽しまなければメディアじゃないじゃん ~No Enjoy No Media~」です。上映には、1日目112名、2日目137名、合計249名の皆さんに足を運んでいただきご覧いただくことができました。



高専祭の映像作品での集合写真

(メディア4年担任：鈴木 大作)

インターンシップについて

平成23年度のインターンシップは、休学中の学生を除く本学科の学生43名全員が就業体験実習に取り組み、10月5日に開催されたインターンシップ報告会で発表を行いました。実習先はIT関連企業、メディア・マスコミ関連企業、動物園など多岐にわたりましたが、約2週間にわたる実習の中で、学校では得られない多くのことを学んできたと思います。この経験を今後の就職活動に活かしてもらいたいと思います。

Jetrun テクノロジ株式会社、株式会社インフォクラフト、株式会社沖縄タイムス、株式会社ミヤギパッケージ、クオリサイトテクノロジーズ株式会社、サンネット株式会社、株式会社ジャスミンソフト、一般財団法人南西地域産業活性化センター、ニフティ株式会社、株式会社日本一ソフトウェア、ベアック沖縄長野事業所、沖縄インターマップ株式会社、沖縄テクノス株式会社、沖縄テレビ放送株式会社、株式会社NTTネオメイト九州支店沖縄営業所、株式会社PUREWORKS、株式会社アドスタッフ博報堂、株式会社インデックス沖縄、株式会社オルタス

ジャパン、株式会社シュガートレイン、株式会社リンクアットジャパン、株式会社レキサス、株式会社琉球銀行、独立行政法人海洋研究開発機構国際海洋環境情報センター、財団法人沖縄こども未来ゾーン運営財団の各事業所様(順不同)には、ご多用中の中、2週間と長期にわたってご対応いただいたことに心からお礼を申し上げます。

(メディア4年副担任・インターンシップ担当：玉城 龍洋)

卒研配属について

来年度5年生になると卒業研究がスタートします。就職や進学などの進路指導は、卒業研究担当教員が中心となり行いますが、就職活動は本年12月よりスタートします。そのため、メディア情報工学科では、本格的な就職活動開始前に各研究室への配属を行うことにより、担当教員とのコミュニケーションが取りやすいよう配慮しています。

来年度の各研究室への配属は以下の表のようになります。

研究室(教員名)	配属学生	
姉崎 隆	大城 創	城間 栄一
	知念 央久	前津 勇輔
伊波 靖	新垣 杏里	新垣 京香
	澤岬 明菜	ハド'ラグ'ソウル
角田 正豊	里 拓	世嘉良 紳
	鉢嶺 清淳	前野 粒子
正木 忠勝	金城 雅人	瀬長 優介
	名渡山 南	八木澤 莉子
太田 佐栄子	仲地 眞早	宮城 大作
	吉本 太志	與那嶺 まこ
玉城 龍洋	宇江城 貴仁	上地 遥
	金城 匡	具志堅 和真
タンスリヤボン スリヨン	佐久田 瑞己	田端 浩之
	宮城 龍堯	与那覇 慎也
西村 篤	喜屋武 慶治	島袋 拓也
	島袋 七星	松田 拓磨
鈴木 大作	上原 幸竜	近藤 玄基
	重 枝里奈	山城 菜月
佐藤 尚	平良 沙織	仲眞 眞子
	比嘉 康晴	和宇慶 朝亮
バイティガ ザカリ	川平 真	玉城 由基
	西村 佳晃	

各研究室の配属学生一覧

(メディア4年担任：鈴木 大作)



各学年の話題(3年生)

学級状況について

後学期は高専際の準備からはじまりました。3年メディアでは、住人全員が謎の死を遂げた荘が舞台のお化け屋敷でした。10月から11月にかけて、設計図や壁の作成、小道具や衣装の準備、材料の購入やお化け屋敷の組み立てに取り込んでいました。安全のため、ダンボールで作った壁を支えるためにオリオンビール工場から空ビールケース300個を借りたり、ホワイトボードなどを使ったりして壁が倒れないように工夫しました。作った7部屋はそれぞれテーマを与えます。たとえば、普通の部屋、散らかった部屋、子連れの家族の部屋、AKBオタクの部屋、人形好きの人の部屋、ストーカーが住む部屋というコンセプトを持たせており、お客さんはこの順番でお化け屋敷内を進むことになります。高専祭当日は、行列ができるほどたくさんの人を集めることができ、11月12日と13日の2日間で約500人を集めることができました。多くの学生が企画や準備を楽しんでいたように見えますが、準備の時間が少ない中苦労も多かったようです。いずれにせよ、高専祭がよい思い出となり、残りの学生生活を共に過ごすクラスメイトとの友情が少しでも深めることができていると願っています。



株式会社パナソニック見学風景

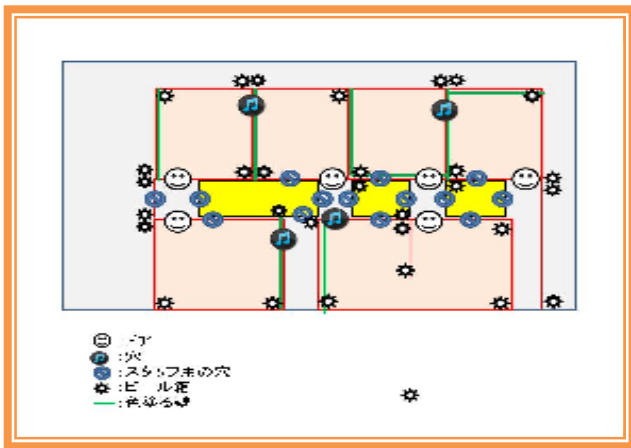


大阪城見学集合写真



ホテルでの夕食時の様子

(メディア3年担任：バイティガ ザカリ)



お化け屋敷設計図

高専際が終わったらすぐに研修旅行の準備をしました。例年は東京とその近郊への企業見学を主に行われましたが、今年度は東日本大震災の影響で、関西地方へ行くこととしました。クラスの友達との初めての研修旅行にほとんどの学生は張り切っていました。研修旅行の際に自主研修日があるため、インターネットを使って研修するところを一所懸命探しました。以下、研修旅行のときの写真です。



各学年の話題(2年生)

学級状況について

10月5日(水)に第2回目の学科別LHRを行いました。この第2回目では、キャリア教育の一環として、メディア情報工学科5年生の久米剛弘さんと大城よしほさんに、それぞれの進路を決めるまでの経緯とその過程で努力してきたことなどについて話してもらいました。2年生は中弛みの学年とも呼ばれ、将来に対する目標を見失いやすい学年でもあります。そこで、早い段階から進路についての意識を高めてもらうことを目的として、進学する場合

と就職する場合とでそれぞれどのような準備をしなければならないのかを知ってもらうための機会を設けました。

久米くんには進学に関するアドバイス、大城さんには就職に関するアドバイスを話してもらいました。具体的には、現在までの高専生活を振り返って思ったこと、進路について意識し始めた時期、進学/就職しようとするに至った理由、本格的に活動する前にどのような準備を行ったか、一連の活動を振り返って思いつく良かった点と悪かった点などについて話してもらいました。

2年生のうちには、まだ進学や就職など先のことと思う学生の方が多いかもしれません。しかし、就職に強いと云われる高専、大学へ編入学で比較的入りやすいと云われる高専でも、進路についてきちんと考えて準備を始める時期が遅ければ遅いほど、苦労することとなり、場合によっては失敗してしまうということにもなりかねません。早い時期から将来何を行いたいのか、何になりたいのか、そのためにはどこへ行けばいいのか、そこへ行くためには何をしなければならないのか、などのことをしっかり考える必要があります。



進学に関する説明の様子



就職に関する説明の様子

(メディア2年担任：佐藤 尚)

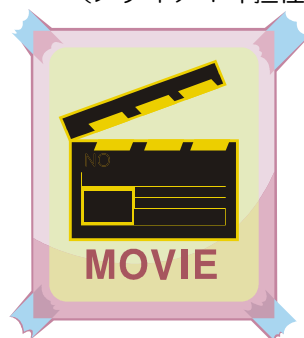


各学年の話題(1年生)

学級状況について

本当に早いもので、第一学年も残すところ数カ月になりました。後期がはじまって間もなくの高専祭、その直後の中間試験、と後期開始以降忙しい数ヶ月だったと思います。12月9日(金)には、「メディアコンテンツ基礎」の校外学習として、名桜大学、総務省沖縄総合通信事務所などが主催する「沖縄デジタル映像祭 2011」を2年メディアの学生と共に見学し、東京でプロの声優として活躍するゲストのトークや、県内の高校生、専門学校生など同年代の生徒学生を含む多くの若いクリエイターの卵達の作品に触れました。多感な年齢の学生達は、授業、寮生活、部活などで多くのことを体験し、それぞれに様々な想いを持って冬休みを過ごすことでしょうか。ご家庭では是非、学校生活がどのようなものであったか、今、何を感じているか、何を考えているか、本人の話をたくさん聞いてあげて欲しいと思います。

(メディア1年担任：西村 篤)



その他の学科内の話題

コンテストについて

・パソコン甲子園

11月5、6日に福島県会津若松市の会津大学で開催されたパソコン甲子園にメディア情報工学科の学生7名が参加しました。

デジタルコンテンツ部門では3年生の新垣憂奈さんと当真早智衣さんのチーム「ひだまりくらぶ」が制作した「O*N(はろー)」が見事、準グランプリを受賞しました。また、2年生の大城愛花さん、當野美幸さん、久松航平君のチーム「big castle」が制作した「ミミンガの地球侵略計画(笑)」は完成度の高い3D CG アニメーションでしたが、惜しくも受賞を逃しました。

プログラミング部門では2年生の桃原彩乃さんと名波山夏子さん(情報)のチーム「ぱんだ族」がプログラミング部門唯一の女子チームとして健闘しました。



デジタルコンテンツ部門で準グランプリを受賞した
3年生の新垣憂奈さんと当真早智衣さん

・EPOCH@まつやま

11月26、27日に愛媛大学で開催された「EPOCH@まつやま」にメディア情報工学科2年の呉屋寛裕君、照屋大地君のチーム「五年保障」が
出場し、ベストチームワーク賞(サイボウズ社長賞)を受賞しました。出場した二人は大会出場前から狙っていた賞を受賞し、副賞のキーボードを手にとさらなる挑戦に意欲を燃やしていました。



ベストチームワーク賞(サイボウズ社長賞)を受賞した
2年生の呉屋寛裕君と照屋大地君

・高専プロコン

来る12月22、23日に京都府舞鶴市で開催される高専プロコンに本学科の学生7名が挑戦します。高専プロコンに参加する学生は呉屋寛裕君(2年)、照屋大地君(2年)、與那城有君(2年)、日熊悠太君(3年)、宇江城貴仁君(4年)、世嘉良紳君(4年)、兼城駿一郎君(専攻科1年)です。

(コンテスト担当: 正木 忠勝)



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、1学年以上の学生をお持ちのご家庭を対象に、年2回(6月と12月)発行している学科通信です。1期生が3学年となった平成18年度に刊行し、今年度で6年目となりました。ご意見ご要望がございましたら、是非下記連絡先までお知らせ下さい。また学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎です。是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905番地
独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科 鈴木 大作
TEL:0980-55-4003(代) FAX: 0980-55-4012(代)